

非核の政府を 求める大阪の会

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 発 行 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・https://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

第190号 2019年3月1日 **ニュース**

今こそ、非核の政府を

被爆者に背を向ける安倍政権の「核の傘」政策=日米核同盟の現実!!

33回総会



二月十六日、非核の政府を求める大阪の会の第三三回
 年次総会が大阪市内で約四〇名の参加で開催されまし
 た。一部は総会、二部は記念講演で共同通信社編集委員
 の太田昌克氏をお招きしました。

開会のあいさつの
 ち、豊島達哉事務局長
 から「第一 非核・平
 和をえぐる情勢と私た
 ちの役割」「第二 二
 〇一八年のおもな活
 動」「第三 非核・平和
 をめざして」と「二〇
 一八年度収支報告及び
 二〇一九年度予算案」
 「今年度の世話人」の
 提案を行いました。
 今年度の方針の特徴

は(詳細は当会のHP)、
 第一に二〇一七年七月
 七日に国連で採択され
 た「核兵器禁止条約」
 が調印国七〇か国、批
 准国が二一カ国(総会
 開催時)に及んでいる
 こと、これは他の非人
 道的兵器(生物兵器禁
 止条約、化学兵器禁止
 条約、対地雷禁止条
 約、クラスター弾に関
 する条約)と比較して
 も順調な経過を経てい
 ることに国際的な情勢
 に確信、また朝鮮半島
 の一時政府が声高に危
 機感を煽るような情勢
 から非核の方向へ舵を
 きっている情勢など、
 諸国民の運動の成果に
 確信、安倍内閣の危険
 性が高まる中非核・平
 和、民主主義を求める
 野党、国民の運動の高
 まりへの確信、三つの
 確信をもって、今こそ、
 非核の政府を求める運
 動の重要性を強調する
 方針が満場一致で採択
 されました。



閉会のあいさつにた
 った吉井英勝常任世話
 人は、講師の太田昌克
 氏へのお礼と当会作成
 の非核意見広告ボスタ
 ーの図案の意味、アジ
 アの世界は非核の大き
 な輪ができており、そ
 の輪が北東アジアを覆
 っていく状況が今日で
 あること、今こそ、非
 核の政府をアピールさ
 れて閉会しました。
 二部の記念講演は
 「日本はなぜ『核の傘』
 を手放さないのか 日
 米(核)同盟の現実」
 と題して、ジャーナリ
 ストの太田昌克氏に講
 演をしていただきました。
 太田氏は自己紹介を
 かねて広島時代に被爆

者との出会い、とくに
 「原爆小頭症」の方々
 のご苦労にふれて現在
 の「核」問題の基本姿
 勢に立っておられると
 熱く語り始められまし
 た。さらに三・一一の
 福島原発事故の発生直
 後、日本列島にある原
 発の多さに驚き、その
 原発問題の出発が奇し
 くも一九五四年のビキ
 ニ被ばくを契機として
 いたこと、日本政府が
 明示的に「核の傘」政
 策をとったのが一九七
 六年の「防衛計画の大
 綱」からであるが、そ
 の前年三木・フォード
 会談(被爆三〇年の広
 島原爆の日)において
 日米両首脳の間意があ
 ったことを指摘、昨年
 末の閣議決定された防
 衛大綱でも「核の傘」
 を国策として確認。核

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題
 - ② 武器絶対化の非核三原則
 - ③ 日本は厳守される非核三原則
 - ④ 国家補償措置を防止する
 - ⑤ 原爆禁止世界大会の開催を強化

日本政府の秘密メモとトランプ政権のNPR

さまざまな敵の脅威に対応できる柔軟な能力、サイバー攻撃も対象に
 敵の先制核攻撃に耐えられる信頼性のある能力
 緊急時に対処できる即応能力
 非戦闘員への副次的被害を抑える選別能力
 潜水艦発射型の核トマホーク退役の場合は日本に事前の相談を(核トマホークは後に退役)
 配備戦略核の一方的削減は日本の安全保障に逆効果の恐れ

トランプ政権の核体制の見直し(NPR)

- 柔軟な核オプションの重要性を力説
- 敵のサイバー攻撃も核報復の対象に
- 潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)への小型核配備で即応性を高め抑止力の信頼性を向上
- 海洋発射型の小型核配備で抑止力の信頼性を向上
- 現時点でさらなる核削減は困難と指摘
- 核戦力の近代化を推進
- 包括的核実験禁止条約(CTBT)の批准は求めず



兵器禁止条約に背を向ける現在の日本政府の姿勢を批判されます。外務省は「分断が深まる」「核保有国抜きの条約に意味はない」と説明しますが、その本音には、「核の傘」と日米同盟すなわち「核同盟」の内実が色濃く反映されており、核禁不参加は、被爆国の民意よりも米国との核同盟を重視したことを意味

すると指摘されます。そのことをよく示すのが、左記の表です。日本政府の秘密メモはオバマ政権時の「核なき世界」へ向かおうとする二〇〇九年、米国会への日本政府の考えを示した秘密メモです。昨年のトランプ政権のNPR(核態勢見直し)と酷似しています。二〇一八年二月河野太郎外務大臣は「今回のN

PRを高く評価」するとコメント、もはや「核なき世界」とは相いれない方向に進んでいる、とのことのお話です。

最後に「どうなる朝鮮半島」について、第一回目の米朝会談の舞台裏で米国・韓国・北朝鮮の情報・工作機関のトップらが綿密な打ち合わせをしていた事実を紹介、その結果、トップ会談は成立しても非核に向けての具体的な内容の詰めが外交当局によって行われず、非常に不十分な結果に終わったのではないかと問題提起されました。そして二月二七〜二八日の第二回目の米朝会談では、「神のmant」(ドイツ統一を実現した故ヘルムート・コールの格言)をつかみ、この歴史的好機を生かす必要があると結びました

シリーズ No. 10

宗 非核

浄土真宗本願寺派僧侶

永江武雄



ブツダ積尊は、「生きものを(みずから)殺してはならぬ。また(他人をして)殺さしてはならぬ。また他人びとが殺害するのを容認してはならぬ。」と説き、また仏教徒が最低守るべき「五つの戒」の第一に「不殺生(殺すな)」(岩波文庫『ブツダの言葉』)と、説かれています。ここに仏教の平和の立場が示されています。しかし浄土真宗をはじめとする仏教教団や、他宗教教団のほとんどはか

つての侵略戦争を「聖戦」と美化し、積極的に協力加担しました。多くの教団はそのことに反省を表明し、現在も靖国問題や安倍自公政権がたくらむ改憲の策動に批判的態度を表明しています。

我が国の宗教者の有志は、所属宗教・宗派の違いを越えて、全国・各都道府県に宗教者平和協議会や宗教者九条ネットワークなどを組織して活動しています。大阪でも、夏の広島平和大会現地における「平和を祈る断食」、「三一・一ピキニデー」や「安倍九条改憲ろ!三〇〇〇万署名」等の取り組みに積極的に参加しています。

戦争は、「世界平和」「生命を守る」等の甘い言葉

町議会への請願代表者をつとめた私は、非核平和を求める思いをいま新たにしています。

非核と科学 No.9

原発と原爆の同異(4)



松山奉史

前回予告した臨界量とそれを支配する形・密度(濃縮度)との関係をウラン原爆について見てみます。

原爆は兵器ですから使用時には飛行機に搭載し目的の地まで運搬できる重量・大きさでないという意味がありません。しかも、投下にあたっては短い落下時間内に爆発が起きることに加え、激しい爆発の威力を最大限に發揮できるように、点火から爆発に到るまでの核分裂連鎖反応(式Ⅱ)ができるだけ短時間で進行することが要請されます。そこで、原爆を設計する際には炸薬部に対して次のような組合せが検討されたはずで、

①の場合、高速 n がU-238を核分裂させる能力があることを利用しますが、その確率は(前回触れたように)かなり小さく、炸薬部を純粋なU-238金属(濃縮度一〇〇%、天然ウランでもほぼ同じ)にしたとしても、その臨界量は数トンになるそうです。これでは、たとえ原爆が作れたとしても飛行機に搭載するには重くなりすぎます。従って①の組合せは除外されます。

②の場合、高速 n を減速しない(故に減速は使用しない)ままU-235に衝突させたときの核分裂の確率はU-238の場合に比べると約四〇倍も大きく、U-235の濃縮度を高くすれば原爆実現の可能性があるかもしれません。実際、純粋なU-235金属について臨界量を理論的に計算してみると約四七kg程度になったようで、以後この②の組合せが原爆開発の出発点とな

りました。因みに、濃縮度二〇%で臨界量は四〇〇kg、一五%なら六〇〇kgになるそうです。

③の場合、高速 n を減速剤を用いて低速 n にすればU-235の核分裂の確率は高速 n の場合に比べて桁違いに大きくなるので原爆実現は一見確実なように見えます。しかし、この方式だと新たに不都合な事態が生じます。一つは炸薬部に減速剤を組み込む必要が生じるためその構造が複雑になり重量・体積も増えることです。もう一つは n が減速過程を経ることで、連鎖反応式Ⅱにおける連続する世代間の平均時間幅がミリ秒程度(長い!)に伸びてしまうことです。すると分裂時に発生する大きな熱の影響で炸薬部の膨張・蒸発という現象が大きく進行し、その結果連鎖反応が十分拡がる前に小爆発を起こしてしまい、それ以上連鎖反応はつながらなくなるのです。つ

まり、原爆に期待されている激しい爆発を十分發揮できないまま終ってしまうわけです。したがって、この方式による開発も意味がありません。

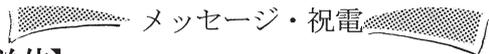
次に、臨界量と形との関係についてですが、この問題は炸薬部の大きさが有限であるという事実から生じ、炸薬部の内部で生成された n の一部は必ず炸薬部表面から外部へ逃げ出すという現象(漏洩といいます)があるという事情に由来します。即ち、生成した n の全てが次の核分裂反応に寄与できるわけではない、という原理的問題があるのです。とはいえ、原爆に要請される性能を実現するためには、漏洩する n を最小限に抑え、(n の数を制御しないで)なるべく多くの n を核分裂に利用したいわけですが、この問題の解決策は炸薬部の形を球形にすることなのです。そのわけは、体積と密度が同じ(故に重量が

同じ)物体のなかで表面積が最小になる形が球形だからです。もし球形からはずれると、表面積は必ず増大し、 n の漏洩も増えることにより、核分裂に寄与できる n の数は必ず減少し反応の効率は必然的に低下します。よって、その分を補正するために炸薬部の重量(従って体積)を増やさないと同じ効率を維持できなくなります。つまり、球形からはずれると臨界量は必ず大きくなる関係にあるというわけです。以上、これまで述べてきたことをまとめてみると、原爆の炸薬部には純粋なU-235金属(濃縮度一〇〇%)を用いるのは球形にすることが理想的で、こうして原爆はコンパクトに軽量化することができ最大の効果を發揮できるようになる、というわけです。

ところで、広島型ウラン原爆の炸薬部は理想とする球形ではなかったために約六〇kgのU-235金属を使用したそうです。そして、爆発までに核分裂したU-235の量は約1kgで、反応に要した時間は一〇〇万分の一秒(一億分の一秒とする人もある)、爆発寸前の温度は数百万度〜千万度、圧力は数十万気圧になったといわれています。また、炸薬部は投下時の落下時間内に臨界量にしてやる必要があり、そのため予め臨界量のウランを二分し、個々には未臨界量である二体を落下中に合体させて臨界量になるようにしました。

一方、長崎型プルトニウム原爆については、落下中の臨界量達成方法にユニークなところがあります。先づ未臨界量のPu金属(八kg)を球形に配置し、その外側に高性能化薬を配します。次に、化薬の爆発力を用いてPu金属を中心方向に向けて均等にしかも急激に圧縮(爆縮といい体積は減少)します。するとPuの密度が一気に大

非核の政府を求める大阪の会第33回年次総会



【自治体】

広島市長	松井一實	長崎市市長	田上富久
寝屋川市長	北川法夫	交野市長	黒田実
能勢町長	上森一成	岬町長	田代堯

【団体】

非核の政府を求める滋賀の会、
 非核の政府を求める和歌山県民の会、
 大阪民主医療機関連合会、大阪のうたごえ協議会
 全大阪労働組合総連合、
 大阪府立高等学校教職員組合、
 日本共産党大阪府会議員団



日本共産党大阪市会議員団
 日本共産党参議院議員
 参議院議員
 衆議院議員
 前衆議院議員
 大阪府国政対策委員長
 たつみコータロー
 山下 よしき
 宮本 たけし
 清水 ただし
 わたなべ 結
 (順不同・敬称及び代表者名略)

大きくなり、当初の仕込み重量に見合った臨界量が瞬時に達成されるというもので、この方法は(重量ではなく)密度の方をコントロールするという点でユニークなのです。

【訂正】
 第一八八号二ページ 最下段三〇行目から、
 (…約四分の一…)
 ↓(…約一万分の一…)
 同三ページ最上段 一七行目から、
 …四分の一ほど…
 ↓…四〇分の一ほど…

お知らせ

「原発ゼロの会」「おおさか大集会2019」
 3月10日(日) エルおおさか(天満橋)
 午前の部 10:00~12:00 自然エネルギー交流
 午後の部 13:30~16:00 記念講演・大集会
 「原発ゼロ・核兵器をなくす第8回アートフェア」
 3月13日~15日大阪市中央公会堂2Fギャリ-



大阪で原子炉見学の

非核大阪の会恒例行事 京都大学複合原子力科学研究所見学会のお知らせ

熊取町にある京大複合原子力科学研究所(旧名原子炉実験所)の一般公開が、今年も四月六日(土)午前10時から午後四時まで行われます。(原子燃料工業の見学はありません) 非核大阪の会では、原子炉の施設を実際に見て実態を知る良い機会と考え、毎年案内、昨年は団体で申し込みをし、参加し



ています。 下記のように、個人での参加も出来ませんが、今年も「非核大阪の会」の団体として申し込みをしますの で、参加ご希望の方は、三月一五日(金)必着で、非核大阪の会までご連絡をお願いいたします。最寄駅(JR熊取)に集って見学後、桜の木の下でお弁当持参で交流もしたいと考えています。 集合はJR熊取駅。 午前10時集合。10時一五分発のバスに乗車します。 ★当日、受付で、顔写真付の証明書(運転免許証、パスポート等)または健康保険証の提示が必要ですので必ずご持参願います。(団体、個人での参加とも必要です)

◆京都大学 複合原子力科学研究所 一般公開 (当日現地での申込も可)

日時 4月6日(土) 午前10時~午後4時
 内容 ビデオ上映、科学実験体験コーナー、施設見学〔原子炉棟(炉室・ホットラボ)、廃棄物処理棟、イノベーションリサーチラボ(FFAG加速器)〕 参加費 無料

申込方法 団体・・・(10人以上)
 団体名、責任者名、連絡先及び電話番号を記載した申込書(書式自由)に見学者名簿を添えて郵送、FAXで
 個人・・・当日守衛所で受付(所定の用紙に氏名等記入)受付は午後3時30分迄
 写真付身分証明書の提示が必要です。また、小学生以下は保護者同伴が必要です。

◆大阪府熊取オフサイトセンター施設公開(申込不要)
 内容 ビデオ上映、テレビ会議体験、放射線の測定、施設公開など

※昨年公開されていましたが「原子燃料工業(熊取事業所)」の見学はありません